

図書館 だより

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつづやき

今年もたくさんの読書感想画・ブックレターの応募ありがとうございました。力作ぞろいでした。 ホテル



新着・お薦め図書

泗水図書館

だから荒野 桐野夏生 著
 さわらびの譜 葉室麟 著
 金色機械 恒川光太郎 著
 ジューン・プライド 小島達也 著
 熊本すてきな雑貨屋さん&カフェ 旅ムック編集部 著
 ニットの家バッグ 東海えりか 著
 花びら姫とねこ魔女 朽木 祥 作
 サンタさんのトナカイ ジャン・ブレット 作・絵

中央公民館図書室

人間関係 曾野綾子 著
 増山超能力師事務所 蒼田哲也 著
 がまんしないでいい 鎌田 實 著
 花や咲く咲く あさのあつこ 著
 でんせつつきのきょだいあんまをほこべ よしながこうたく 絵
 ぼんぼん 眞珠まりこ 絵

七城公民館図書室

海と月の迷路 大沢在昌 著
 かくて老兵は消えてゆく 佐藤愛子 著
 ジャッキーのしんゆう あいはらひろゆき 文
 とことんトマトン 高山栄子 作

旭志公民館図書室

敗者の古代史 森 浩一 著
 三途の川で落しもの 西條奈加 著
 おめんです いしかわこうじ 作・絵
 かいぞくはパンツがだいすき クレア・フリードマン 文



「霖雨」 葉室麟 著

七城図書館に通い始めて5年、600冊以上読んだことになる。なかでも葉室麟の時代小説は読後感がさわやかで明日への希望が持てる作品が多く「霖雨」は好きな小説である。

天領日田の教育者で詩人でもある広瀬淡窓の私塾「咸宜園」をめぐる確執を描く。日田代官から無理難題を押し付けられ、これを天

の試練と受けとめ、悲運が雨のように降りかかろうとも日々の務めを怠らず歩み続ければほのかな灯が見えてくると、苦悩しながらも明日に希望を見出し万難に対処していく。人は何のために生きるかを問い続け、降りやまぬ雨があがらぬ日はないと達観し精進を続ける。それが霖雨という表題でもある。また詩人としても心洗われる詩作を残している。

終生日田を離れず、時には曲学阿世の徒と非難されようとも信念を曲げず人々を導き、大村益次郎、高野長英など4千人に及ぶ人材を輩出した。人を思う気持ちを忘れず人を潤す慈雨になれと諭した言葉は味わい深いものがある。

耳より情報

♪キラキラ☆クリスマスカード作り♪

今月の中央公民館図書室の「おたのしみかい」は、「クリスマスカード作り」です。手作りのカードで大切な人にクリスマスカードを贈ってみませんか？ 皆様のご参加をお待ちしています！

とき 12月21日(土) 午前10時～
 ところ 中央公民館図書室



☆年末年始の休館日・閉室日☆

年末年始のお休みは次のとおりです。
 ◆泗水図書館 12月28日(土)～平成26年1月4日(日)
 ◆中央公民館・七城公民館・旭志公民館図書室 12月28日(土)～平成26年1月5日(日)
 ※閉館・閉室時の本の返却は、ブックポストをご利用ください。



万句の里俳句会 10月例会

幼子の歩みの止まる草紅葉 丸山美代子
 一本の松に秋風吹きぬける 岩木 敬治
 秋風の静かに通る畦の道 野中 公枝
 連山を一つにしたる紅葉かな 隈部 輝子
 槌音の一際高く秋の空 田島 房子

せせらぎ俳句会 10月例会

祖母の背の温みを思ふ月夜かな 村山 数恵
 七五三服こそばゆき記憶かな 渡辺 大寿
 たたみ方覚え男の更衣 藤本 邦治
 漂泊のところに秋の雲を見る 五丁 義昭
 頂きし栗剥く夜半や一人居て 寺本 和子
 旭志文芸教室俳句会 10月詠草
 しずむ陽のたらい程ある里の秋 水谷 ミネ
 しみじみと一人の月見酒も添え 芹川のり子
 台風之余波風去りて十三夜 中尾ヨシコ

千の風連れて散歩の彼岸花

肥後狂句桜会 10月例会
 二つとない 不揃いの皿焼かしたつ 上村 ○子
 立ち直り 優勝戦に間に合うた 小川 繁美
 いけるねえ 見栄えはせんがこりゃ 狩野 本六
 珍味 もだえなん 老いるばかりの拉致家 窪田 明德
 族 里の秋 新調さした涎掛け 田中 孝幸

肥後狂句水笑会 10月例会

台風 進路指導せなあならん 吉岡 三水
 天高し 羽根のあるなら飛ばごたる 平井 江彩
 天高し 肥ゆる馬どま今はみん 中島 五女
 台風 値上げ増税つむじ風 続 義昭
 実りの秋 財布にや綿ば詰めといた 山隈 好茶
 秋深み稲田の案山子金ピカの半袖短パン寒くはないか 岩崎 照代

木戸出れば道沿い連なり赤黄に咲く

里短歌会 10月詠草
 やわらかき風の流れば地に低く稲のひこばえさらさらと鳴る 川口 敦子
 台風二十六号の爪痕かなし映像の瓦礫の中にコスモス震ふ 松本 和子
 主な庭にほこれる萩の花薄紅色は垣根を越えて 江頭 桂子
 夏の過ぎ母の形見のワンピース水玉模様褪せて十五年 桑野 睦子
 石段の間中わたせる一本の手すり伝えば山の禅寺 宮本 淑子

菊池短歌会 11月詠草

シクラメン植ゑむと鉢を洗ひをり冷たき秋の流れに下りて 古賀 勝士
 るりしじみ命小さく賜ひたる何に叛かぬ範囲を舞ふや 竹野美智代



天晴れといふ生きざまに終りたし遂に卒寿を給はりし身の 中川 愛子
 ひと畝の土に蕪の種を蒔くわれにも来向ふ冬想ひつつ 中原ちえ子
 姉妹どうし交はすメールもここにきてもはや楽しき親の命日 村上さき江

文芸 きくち